

# 今日も「一丁あがり」

第22話

生物進化の原則に従って  
ロボストスは変異するか!? の巻



皆さん、こんにちは！ 社員の結婚式で乾杯の挨拶を大失敗してしまいましたロボストス高垣でございます。さて、弊社の社名「ロボストス」の由来をまだ紹介していませんでした。絶滅した人類アウストラロピテクス・ロボストスからもらっています。というのも、少年時代の僕の夢は考古学者でこの手の話がすごく好きなんです。200万年前、石器を使用した人類は、僕ら現生人類につながる華奢型猿人ホモ・ハビリスだとされていて、頑丈型猿人と呼ばれるロボストスはその時代を共に生きていました。噛む力が強く、おもに草の根や木の実を食べ、臼歯を大きく発達させたと言われていません。一方でホモ・ハビリスは原始的な石器を使い、肉食獣が食べ残した死肉を剥がしたり、骨を割って骨髓を食べたりしていたそうです。石器による肉食行為が脳の肥大化につながったのだと。つまり、道具の有無やその使い方によって進化が分かれ

たんですね。これは現代にも通じる話でしょう。製造業を研究していた頃に、工作機械の組み合わせと使い方によってアウトプットの付加価値を変えられることに気づきました。農業でも同じことが言えますよね。「もしロボストス猿人が現代に生まれ変わったら何をやるだろう?」と妄想して、「農業機械の使い方」でお役に立てる場面があるならと、今の仕事に取り組んでみたくです。へえ〜と読み流していただきました(笑)、今月も直近に対応した案件をパパッとご紹介しましょう♪

## 調整可能で簡単な設計で現場対応

トップバッターは「MF5711SLの車載モニター用ステーを作った欲しい」という依頼。最近トラクターのキャビン内がコックピット化されていて、モニターの配置



高垣達郎 (たかがき・たつろう)  
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に株式会社ロボストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。株式会社ロボストス代表取締役社長。

に困っている方が多くいらつしやいます。「RAMMOUNT」を活用したモニター取り付けが増えていますが、本機の純正のステーはパイプが細くて挟み込めない……。OK 牧場！ キャビン内に縦軸と横軸のパイプを設置しましょう！ 調整可能かつ簡単な設計で、新車に映えるようキレイに仕上げ、一丁あがり〜！

お次は、「イセキTS3600のロアリンクが破損したので、なんとかして欲しい」という依頼。ポールエンドの摩耗修理はよくある相談で



写真1：どこにでもRAMMOUNTを接続可能に。パイプ端面にコルクを詰めたオシャレ仕上げで、大喜び!!



写真2：塗装してキレイに仕上がったイセキTS3600のロアリンク



写真3：マルヤマBSA500の特注ブーリ。農家さんの希望を実現できて嬉しい!

ですが、今回はロアリンク全体がひん曲がっていたので、丸ごと作り直すことになりました。材質、曲がり角度、ポールエンド間の寸法をしっかりと合わせて、一丁上がり〜！

3つ目は「マルヤマBSA500の農業散布量を抑えるために低圧ノズルを使用したい」とのご要望。回転数を落とすのに純正より径の小さいVプーリを製作したのですが、小さくしすぎるとVベルトが機能しなくなる最小径があるので、そこを注意して設計。切削&メッキをして、Vベルトの種類の交換も提案して、一丁上がり〜！

「進化は目的をもって起きるのではなく自然選択の結果に過ぎない」という生物進化の原則に従って、皆さまの変化に合わせて、黙々と作り続けてまいります。ということですが、考古学感の強い内容でしたが(笑)、今日も三丁あがり〜！